

## 『ピアノを始めた理由』

私がピアノを習い始めた理由は？それは母自身がピアノを習うのが夢だったというよくある理由です。しかも男の子ですから物心ついた頃からは恥ずかしかったのを覚えています。「ピアノは女の子がやるものじゃ？」という時代でしたから自ら「ピアノ習ってます。」とは言いたくなかったですし発表会前にはプログラムを友達に配ったことなど一度もありませんでした。これは音大に進学するまでそうでしたのである意味“続いたもの”の一つかもしれませんね？（笑）。ちなみに私がやったお稽古事は小学生になってからは習字（小1～小6まで続けて五段取得）とそろばん（三級取得で退会）。そして高学年からは今の子どもと同じように私立受験の進学塾に通ってました。毎週土・日は弁当持って塾。習字はコンクールでも数回入賞しました。\*美紀先生は小学生の頃に水泳で佐世保市の大会で準優勝だったそうです。

話はピアノに戻りますが練習はそこそこはやっていたと思います。だって厳しかったですから母は。学校から帰宅したらまず練習！練習が終わらないと遊びに行けないし椅子から降ろしてもらえない。時には物差しでピシャ！と。やっと練習終わって外に遊びに出るとみんなは遊び終えて帰る途中。でも辛いとか寂しいと思った記憶はないんです。多分この幼少期に“継続”の土台が作られたのでしょいうね！親は別に音楽家にしたいとは思っていなかったようですが。

幼児から小3、4くらいまでのピアノの状態はペーペーでした。当時は子供が多く同学年に5人も6人もいましたからいつもその中では一番下。レッスンは？というとあまりにも同じ間違いを繰り返すので「印つける色がなくなったから色鉛筆を持ってきて！」と先生に言われてました。「辞めたら？」とも言われたことも数知れず。もちろん先生は笑いながら冗談にですけど（のちに先生から聞いた話だと試していたとのこと）。でも絶対に辞めるとは言いませんでした。多分当時の私にとって週に1時間のピアノのレッスンは“自分をさらけ出せる時間”だったような気がします。毎回「どうやって先生を驚かせるか？」そんな事ばかり考えている悪ガキでした。先生が座る椅子にブーブークッション仕掛けたり不適切ですがウンチの模型を椅子の上に置いたり、グランドピアノの下に潜って先生の足をこちょこちょしたり・・・。なのでレッスン帰りの車の中では毎回こっぴどく叱られてました。それでも懲りないんですよ私は（笑）。

そういう状態で決して弾ける子ではなかった私もある事をきっかけにスイッチが入ったんですよ！そう、やる気スイッチみたいなものですかね？

では続きはまた次回に。